

当社の現状と成長戦略

- Make our dreams by Technology -



株式会社 丸順

名古屋証券取引所 市場第二部

証券コード：3422

2019年9月28日

1. 会社概要

* 会社概要 * 沿革 * 事業概要 * 国内・海外拠点

2. 決算概況

* 2018年度連結決算概況 * 2019年度業績予想

3. 客先・受注部品状況

* 客先別構成比率・主要顧客 * 拠点別受注車種・新規受注状況

4. 中長期的な成長へ向けた取組み

* 東プレ(株)との資本業務提携 * スーパーハイテン技術の競争力強化
* 電動化関係部品の受注拡大 * スマート工場への取組み * 中長期的な数値計画

5. 投資家の皆様へ

* 配当について

1. 会社概要

* 会社概要 * 沿革 * 事業概要 * 国内・海外拠点

2. 決算概況

* 2018年度連結決算概況 * 2019年度業績予想

3. 客先・受注部品状況

* 客先別構成比率・主要顧客 * 拠点別受注車種・新規受注状況

4. 中長期的な成長へ向けた取組み

* 東プレ(株)との資本業務提携 * スーパーハイテン技術の競争力強化
* 電動化関係部品の受注拡大 * スマート工場への取組み * 中長期的な数値計画

5. 投資家の皆様へ

* 配当について

社名	株式会社 丸順
創業/設立	1952年7月1日創業 / 1960年1月4日株式会社設立
本社	岐阜県大垣市上石津町乙坂130番地 1
代表者	代表取締役社長 齊藤 浩
従業員数	単体 322名 / 連結 2,266名 (2019年6月30日現在)
株式	名古屋証券取引所 市場第二部
資本金	19億5,086万円 (2019年6月30日現在)
事業内容	自動車用車体プレス部品製造 自動車用精密プレス部品製造 各種金型の設計・製作 治具・検具の設計・製作

1952年7月

丸順精器工業を創業。自動車車体用プレス金型の製作を開始。

1960年1月

丸順精器工業株式会社を設立。

1963年4月

本田技研工業株式会社と自動車部品用プレス金型の取引開始。

1997年5月

株式会社丸順に社名変更。

1999年2月

名古屋証券取引所市場第二部に上場。

2003年8月

上石津工場に3000tトランスファープレス及び800tブランキングプレスを導入。

2017年5月

東プレ株式会社と資本業務提携を締結。



2019年11月

上石津工場に日本丸順2機目の3000tトランスファープレスを導入。



MARUJUN の一貫生産体制

開発→設計→金型・治具・検具製作→量産まで全てのものづくり工程を一貫して対応

研究開発

研究開発活動

軽量化・車体強度を両立させる
ハイテン材の加工をはじめとする
次世代のものづくりのためのさま
ざまな研究開発

社会
ニーズ

環境
ニーズ

-超高強度-
超ハイテン材
(超高張力鋼板)

エンジニアリング

金型事業

あらゆる種類の金型づくりを
海外拠点と連携しグローバルに
展開

超高張力
鋼板対応

超大型
部品対応



生産

Body・電動化部品事業

蓄積したノウハウと最新の加工
技術を融合した、高品質で高
効率な生産体制を構築

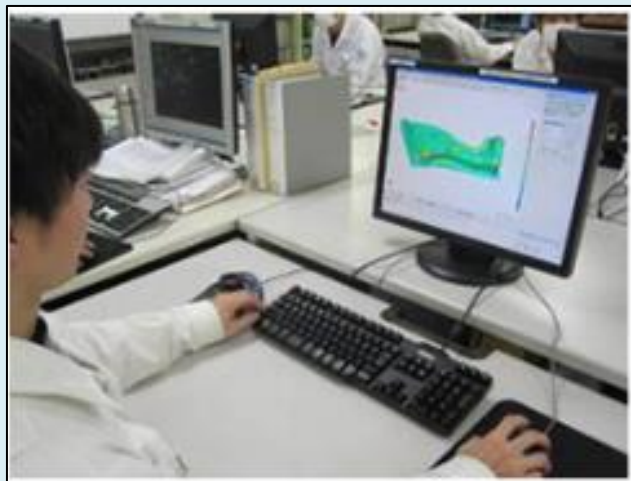
高効率

高品質

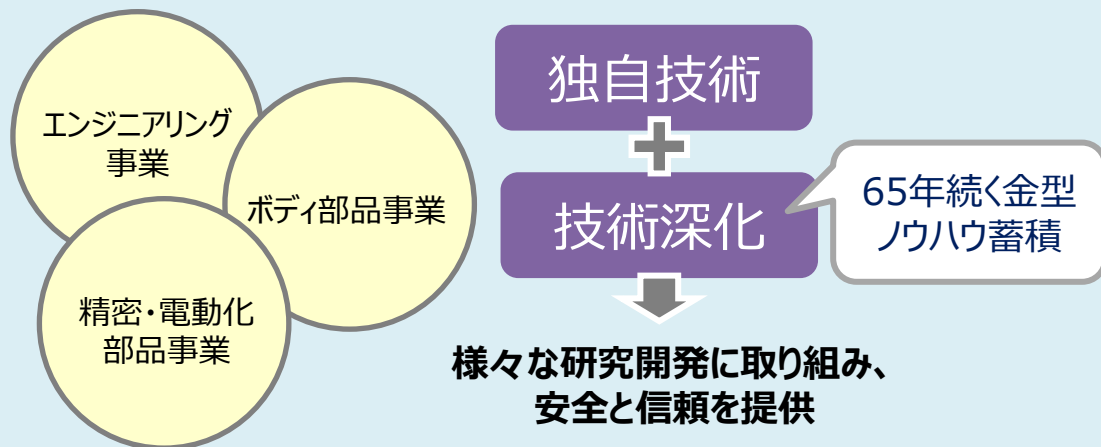


新汎用溶接セル

研究開発



加工・量産の難易度が高い材料の生産技術など次世代で求められる自動車部品の研究開発に取り組んでおります。



エンジニアリング事業



金型：フロントインナーアッパープレート



検具：パネルリアフロアー



溶接治具：PCUケースアッシー

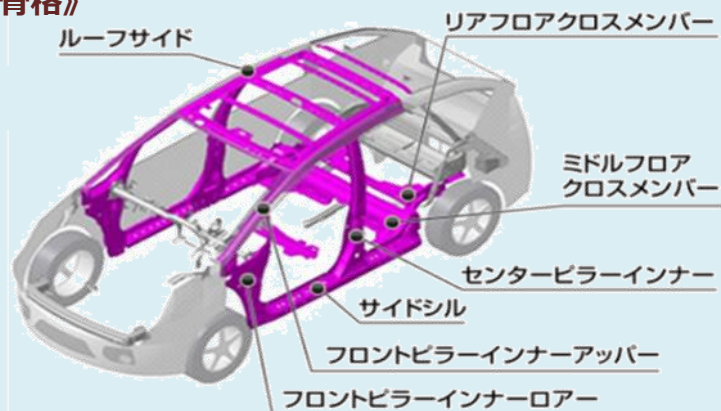
創業以来の伝統ある金型づくりでは、「世界最速金型製造」を目指し、海外拠点との連携や幅広い技術力により全ての生産設備に最も適合する金型を提供しております。

部品生産

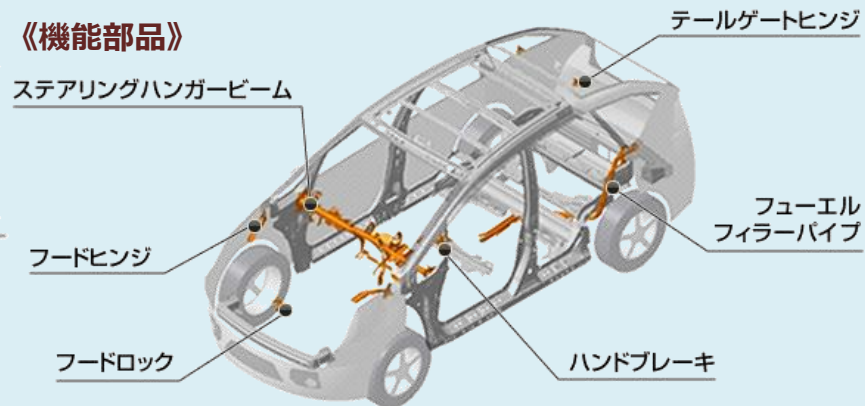
精度保証された製品を生み出す高い生産技術を柔軟な発想により、新しい技術提案を展開しております。

Body部品事業

《車体骨格》

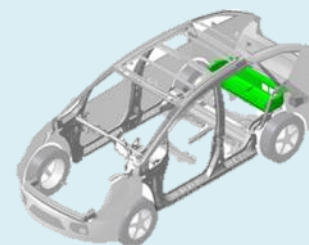
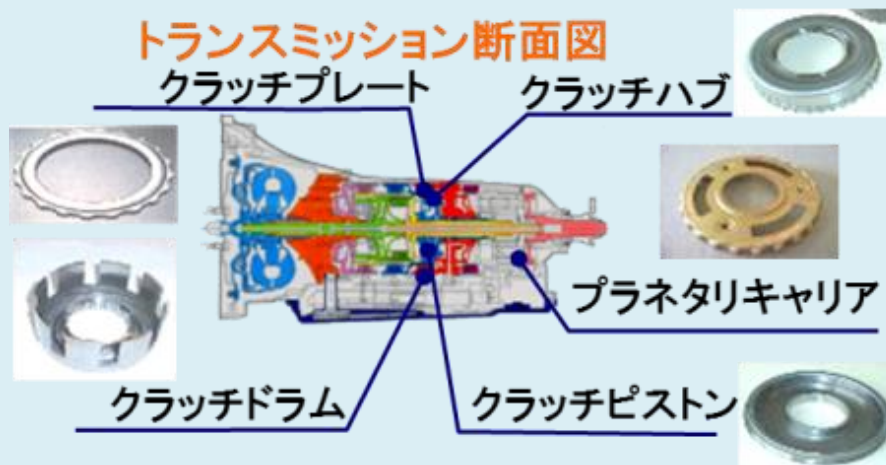


《機能部品》



精密・電動化部品事業

トランスミッション断面図



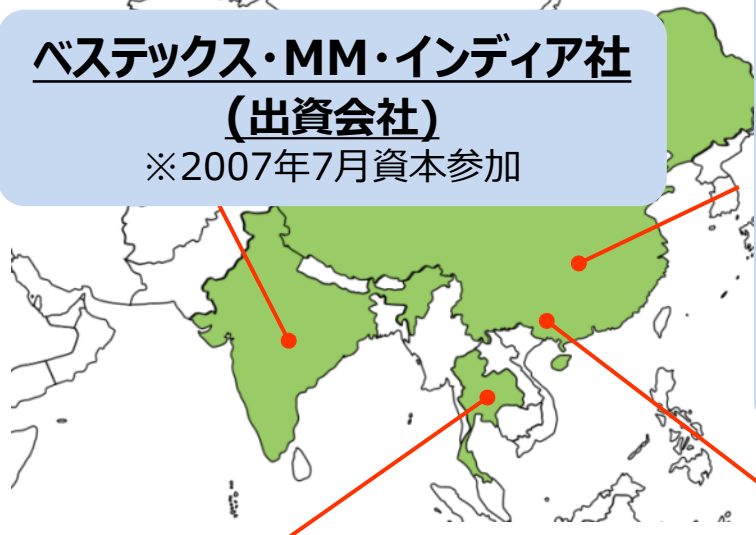
ハイブリッドカー部品の心臓部である、バッテリー及びPCUのカバー部品



子会社：3社 出資会社：1社

ベストックス・MM・インディア社
(出資会社)

※2007年7月資本参加



タイ・マルジュン社(子会社)

※1994年7月設立



FUEL TANK

<主力製品>

*インフレーター *FUEL TANK など

武漢丸順汽車配件有限公司(子会社)

※2003年10月設立



<主力製品>

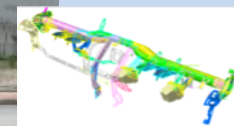
*ステアリング
ハンガービーム
*バンパービーム など



バンパービーム

広州丸順汽車配件有限公司(子会社)

※2001年11月設立



ステアリング
ハンガービーム

<主力製品>

*ステアリングハンガービーム *フィラーパイプ など

国内：5拠点

本社・上石津工場

自動車部品、
金型及び治具・検具の製造、
営業・開発部門



鈴鹿工場

自動車部品製造



浅西工場

自動車部品製造



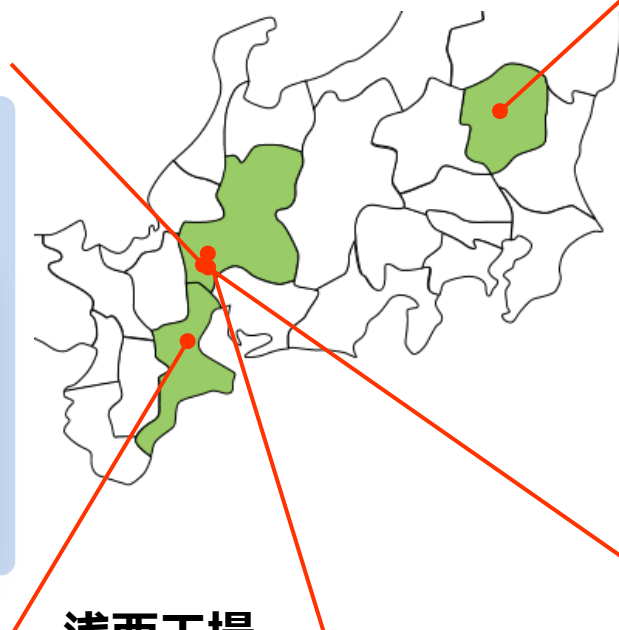
栃木開発センター

営業・開発部門



養老工場

精密プレス部品製造
電動化部品製造



1.会社概要

* 会社概要 * 沿革 * 事業概要 * 国内・海外拠点

2.決算概況

* 2018年度連結決算概況 * 2019年度業績予想

3.客先・受注部品状況

* 客先別構成比率・主要顧客 * 拠点別受注車種・新規受注状況

4.中長期的な成長へ向けた取組み

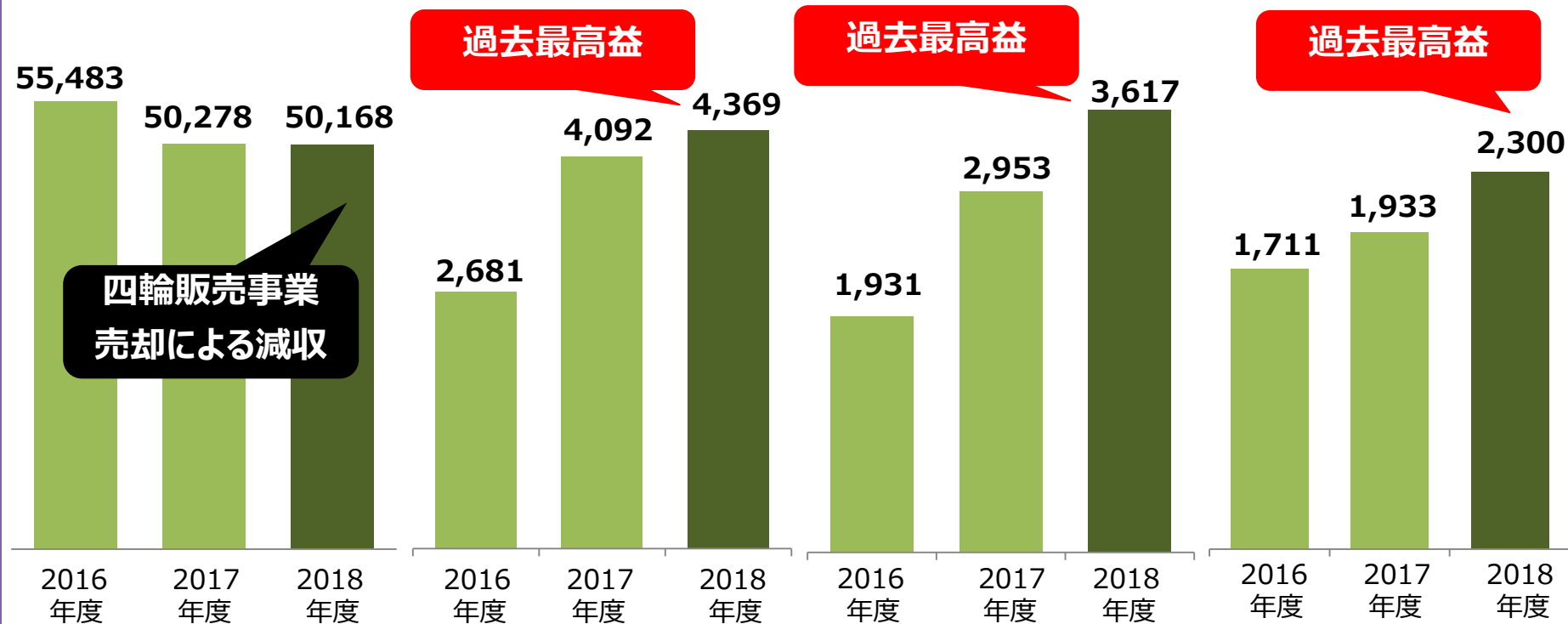
* 東プレ(株)との資本業務提携 * スーパーハイテン技術の競争力強化
* 電動化関係部品の受注拡大 * スマート工場への取組み * 中長期的な数値計画

5.投資家の皆様へ

* 配当について

2018年度連結決算概況

売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益
50,168百万円 前年同期比▲0.2%	4,369百万円 前年同期比+6.8%	3,617百万円 前年同期比+22.5%	2,300百万円 前年同期比+19.0%



売上高は前年同水準となったものの、各利益では3年連続過去最高益を更新
中長期5カ年計画1年目として順調なスタートを切った

2019年度業績予想

13/34

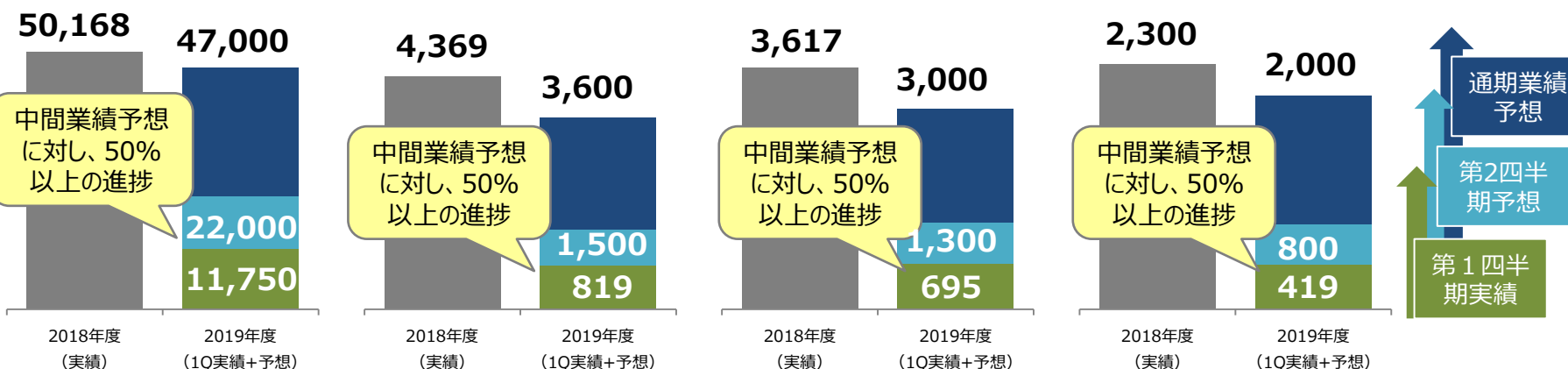
MARUJUN Co., Ltd.
(単位：百万円)

売上高

営業利益

経常利益

親会社株主に帰属する 当期純利益



売上高は、特に中国の拠点で減収を見込み、2019年度通期業績予想は前年比減収。
利益は、全拠点で施策の積み上げを実施するも、減収を補いきれず、2019年度通期業績予想は全利益段階において前年比減益。
なお、中間業績予想に対し、第1四半期実績は売上高、各段階利益ともに50%以上の進捗。

丸順：消費増税等による外部環境変化および新大型プレス機導入等の内部環境変化あり。
新規部品の立ち上がりが多く、立上りコストを見込む。
タイ：経費・労務費等の固定費削減の継続的な施策効果が徐々に表面化。
中国拠点(広州/武漢)：中国自動車業界の影響を受け、客先減産。施策の積み上げは継続的に実施。

2019年度業績予想は中国経済の不透明感により前年比減収を予測するも、
各種施策取組みを実施することで利益率は前年同水準を目指す

1.会社概要

* 会社概要 * 沿革 * 事業概要 * 国内・海外拠点

2.決算概況

* 2018年度連結決算概況 * 2019年度業績予想

3.客先・受注部品状況

* 客先別構成比率・主要顧客 * 拠点別受注車種・新規受注状況

4.中長期的な成長へ向けた取組み

* 東プレ(株)との資本業務提携 * スーパーハイテン技術の競争力強化
* 電動化関係部品の受注拡大 * スマート工場への取組み * 中長期的な数値計画

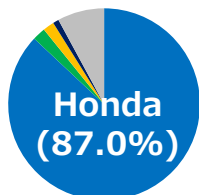
5.投資家の皆様へ

* 配当について

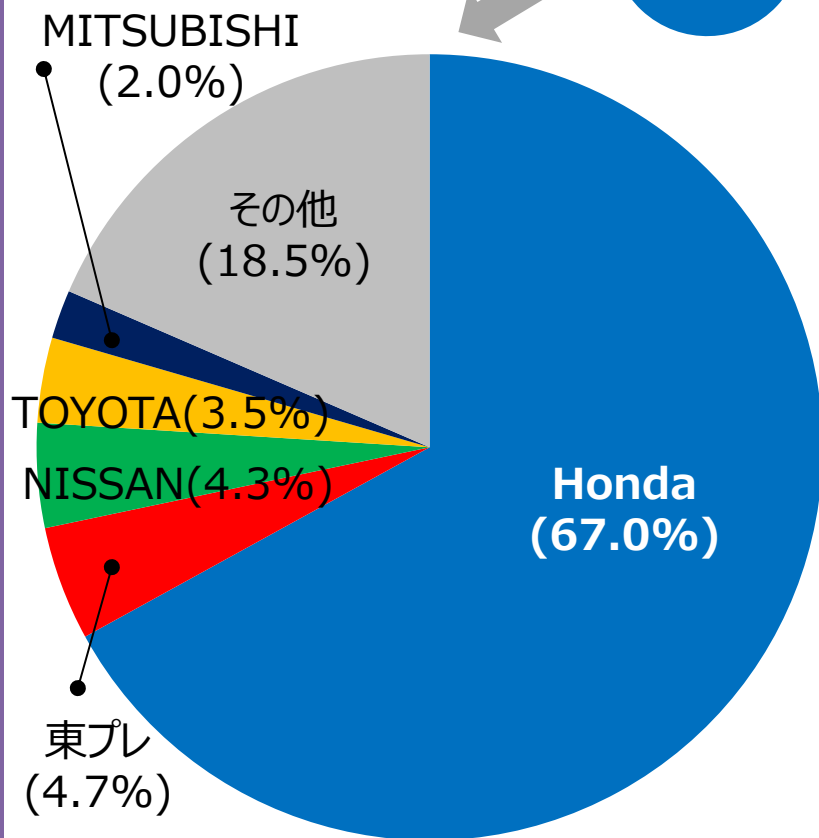
客先別構成比率・主要顧客

◆ 連結主要客先別売上高比率

◇ 2014年度実績



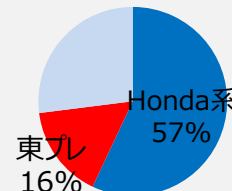
◇ 2018年度実績



◆ 拠点別主要顧客

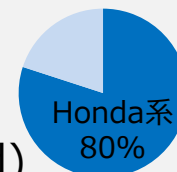
丸順

本田技研工業 / 東プレ
Panasonic / アイシン精機
トヨタ車体 / 武蔵精密 / 日産車体



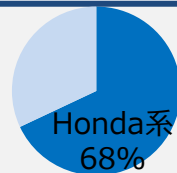
タイ

Honda Automobile (Thailand)
Thai Honda Manufacturing
Suzuki Motor (Thailand)
Daicel Safety Systems(Thailand)
Topre (Thailand)



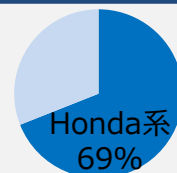
広州

广汽本田汽車 / 東風本田汽車
广汽三菱汽車
广汽菲亚特克莱斯勒汽車 (FCA)
伟巴斯特车顶系统 (Webasto)



武漢

東風本田汽車 / 鄭州日産汽車
法雷奥集团 (Valeo)
广州小鹏汽车



Hondaを中心としながらも、東プレをはじめHonda以外の受注増加を全拠点で加速中

丸順

Honda

「N-BOX」



「FIT」



「N-VAN」



NISSAN

「DAYZ」 ※2019年3月発売



受注部品はハイテン材を使用した部品も含め、骨格部品を中心に100点以上。

「ノートe-POWER」



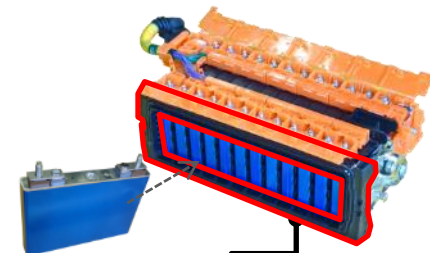
SUBARU

「フォレスターe-BOXER」



新規受注部品

「バッテリーモジュール構成部品」



出展:MarkLines

丸順受注部品

車載用電池パックのバッテリーモジュール構成部品を初めて受注。大手メーカー2社より受注。

タイ

Honda

「CIVIC」



「JAZZ」



「CR-V」



SUZUKI

「CERELIO」



汎用エンジン

「FUEL TANK」



新規受注部品

Honda アコード「電動化関連部品受注」

2019年夏頃タイ国内で生産開始予定のアコードハイブリッドのIPU関連部品を受注。



広州

Honda

「ACCORD」



「CRIDER」



TOYOTA

「CAMRY」



新規受注部品

「VW車種サンルーフ受注」

創業以来初となるVW
(フォルクスワーゲン)社向け
サンルーフ部品を受注。



FIAT

「Jeep」



新規受注部品

「大型バッテリーケース量産開始」

広汽本田汽車有限公司初の電気自動車V E-1のバッテリーケース及びカバーの量産を開始。また、東風汽車有限公司初の電気自動車にも同様のバッテリーカバーを納入予定。



武漢

Honda

「CIVIC」

「CR-V」



NISSAN

「NAVARA」



新規受注部品

「G3」

中国の電気自動車メーカーである「小鹏汽車」との取引を開始。中国現地電気自動車メーカーとの取引は初。



各拠点で順調に新規部品の受注を獲得。新規メーカーとの取引も拡大中

1.会社概要

* 会社概要 * 沿革 * 事業概要 * 国内・海外拠点

2.決算概況

* 2018年度連結決算概況 * 2019年度業績予想

3.客先・受注部品状況

* 客先別構成比率・主要顧客 * 拠点別受注車種・新規受注状況

4.中長期的な成長へ向けた取組み

* 東プレ(株)との資本業務提携 * スーパーハイテン技術の競争力強化
* 電動化関係部品の受注拡大 * スマート工場への取組み * 中長期的な数値計画

5.投資家の皆様へ

* 配当について

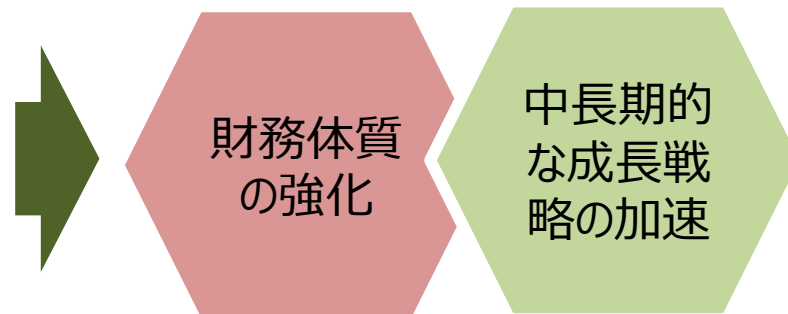
2017年5月11日 東プレ株式会社との資本業務提携を発表

【東プレ株式会社 会社概要】

社名	東プレ 株式会社 (Topre Corporation)
設立	1935年4月30日株式会社設立
資本金	56億1千万円 (2019年3月末現在)
売上高	連結2,013億6千5百万円 (2019年3月期) 単独1,120億7千3百万円 (2019年3月期)
株式	東京証券取引所市場第一部上場
本社	東京都中央区日本橋3-12-2 (朝日ビル)
代表者	取締役社長 内ヶ崎 真一郎
事業所	工場/相模原、広島、栃木、岐阜、埼玉、福岡(関連会社)、三重(関連会社)など
関連会社	国内/7社、海外/7社 (中国、タイ、インドネシア、インド、アメリカ、メキシコ)
従業員数	連結4,248名 / 単独1,484名 (2019年3月末時点)
事業内容	自動車用板金プレス製品の開発・製造及び販売、冷凍冷蔵車の開発・製造など

【提携内容】

- ① 生産・金型調達の補完
- ② 人材交流とノウハウの共有
- ③ 共同購買の検討・推進
- ④ 技術領域における人材・保有技術等の交流



【提携の主なメリット】

◆ 販路拡大	<u>互いの主要取引先へ販路を拡大</u>
◆ 技術力強化	<u>得意技術の共有・活用により相互の技術力を強化</u>
◆ 生産拠点の補完	<u>両拠点の有効活用による、グローバル競争力の強化</u> →東プレグループ内での当社の役割と意義 <ul style="list-style-type: none">* 一貫生産（金型製作から部品量産まで可能）* 金型製作技術力（北米向け金型供給）* 東プレ生産拡大に伴う量産受注* 丸順-東プレ連合による生産力増強に伴う受注拡大（岡山地区部品の量産を当社及び東プレが担う） など

提携メリットを活用し、財務体質強化・中長期的な成長戦略の強化を推進

【提携シナジー進捗状況】

①生産・金型調達の補完

- **日産DAYZ部品量産開始**
(2019年3月)
提携後、初めて企画段階から関与
- **次期日産ROOX部品受注確定**
- **新3000tプレス機導入**
競争優位性の高い超ハイテン部品の受注拡大に対応。新プレス機は2019年10月稼働予定
- **東プレ向け金型受注の拡大**
国内向け金型受注の拡大及び北米向け金型の受注決定



②人材交流とノウハウの共有

- **新原価管理手法展開中**
東プレ原価管理ノウハウを共有化し、個別原価・投資評価等の新管理方法を展開中
- **営業部門要員の相互派遣**
受注競争力強化、相乗効果

③共同購買の検討・推進

- **購入部品・製造委託先メーカーの紹介**
生産能力・受注競争力強化

④技術領域における人材・保有技術等の交流

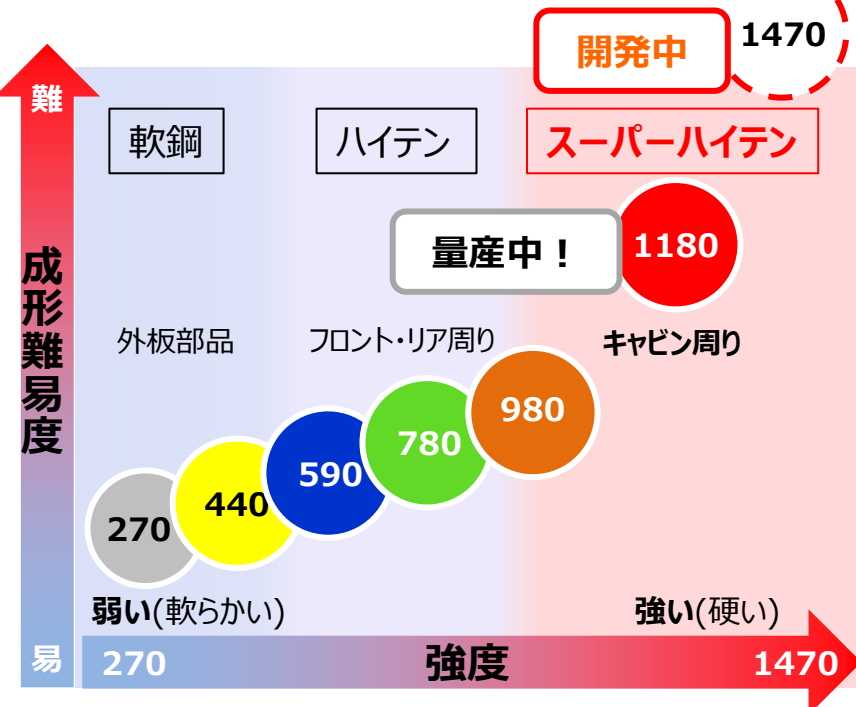
- **技術交流会の実施**
固有技術の共有による技術の進化・深化

提携シナジーを最大限に発揮し、各領域とも順調に推進中

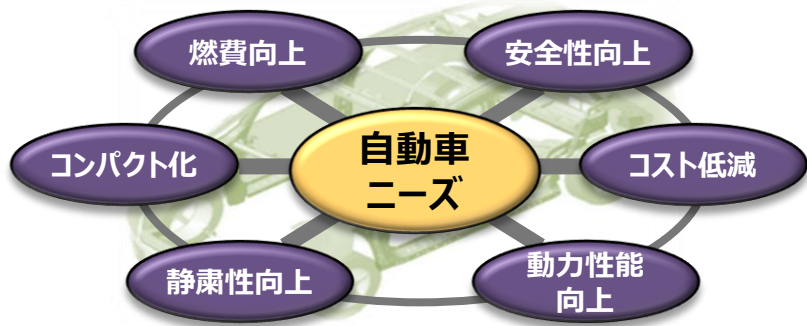
【自動車骨格ボディに求められること】



【自動車骨格ボディに使われる鋼材】



【軽量化の効果とハイテン材】



1180	スーパーハイテン	強度	非常に高強度
980		成形	非常に難易度高
780	ハイテン	強度	強度は高い
590		成形	比較的難しい
440	軟鋼	強度	強度は低い
270		成形	容易

スーパーハイテンは人の命を守る「キャビン(客室)」周りの骨格に使用。

【製法の違いによるハイテン化への取組みの違い】

	生産性	環境	コスト	重量	成形難易度	※彼我比較
冷間プレス	○	○	○	○	難	
ホットスタンプ	×	×	×	○	易	

＜ホットスタンプの製法＞

鋼板を900°Cに加熱し、金型で挟みながら冷却。
1分間に3～5個の生産性。

HOTスタンプライン



YouTube : ABB Robotics様

＜冷間プレスの製法＞

金型で挟んで形状を整え、穴あけ/切断一連加工。**1分間に約20個**の生産性。

冷間プレスライン



当社 3000tトランスファープレス

丸順は**超ハイテン冷間プレス**技術を進化・構築し、お客様ニーズ・環境ニーズに貢献

実際に、**冷間プレス**の工法と**ホットスタンプ**の工法を**比較**します。

HOTスタンプ 工程イメージ



YouTube : ABB Robotics様

冷間プレス 工程イメージ



当社 3000tトランスファープレス

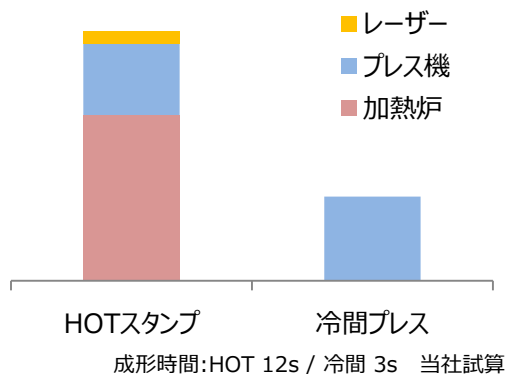
【外観比較】



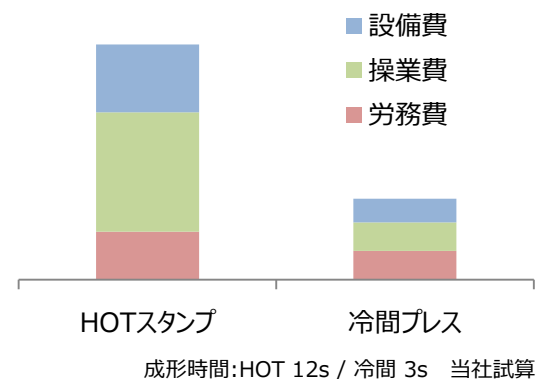
HOTスタンプ

冷間プレス

【Co2排出量/1shot】



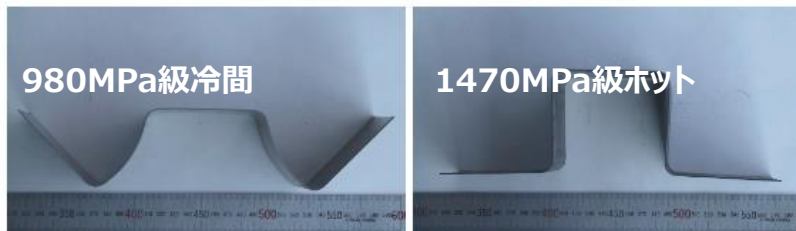
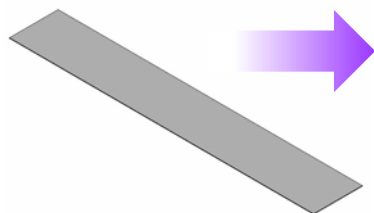
【コスト/1shot】



環境面、コスト面において**冷間プレス工法**は非常に優位

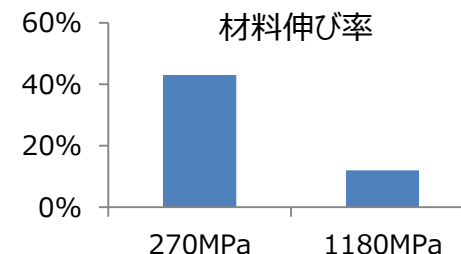
●冷間ハイトン成形の難しさとは・・

大きなスプリングバック



出展:新日鉄様HP

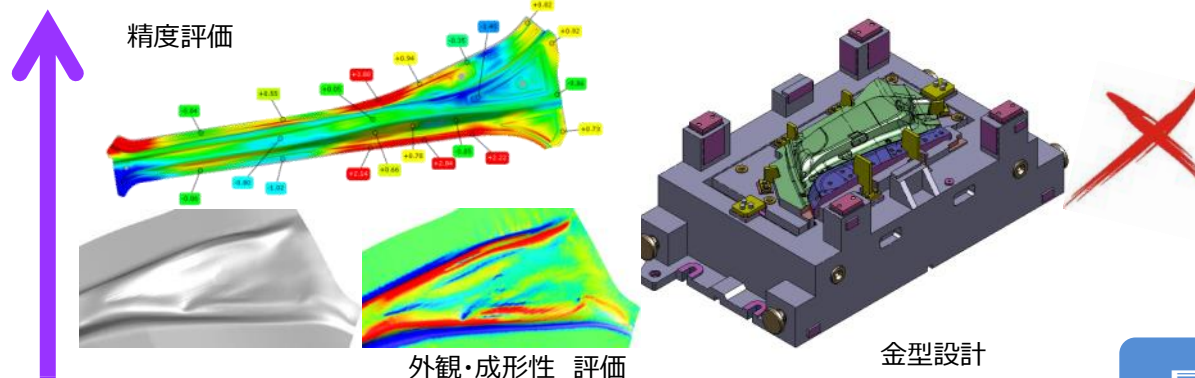
少ない伸び



高い「成形解析技術」「金型設計・製造技術」が必要

●当社の超ハイトン冷間プレス技術

豊富な実績データに基づく成形解析技術 + 金型設計技術



精度評価

外観・成形性 評価

金型設計

蓄積したノウハウを基に、外観にまでこだわった解析・設計技術を構築

匠の金型製造技術



量産現場からのフィードバック

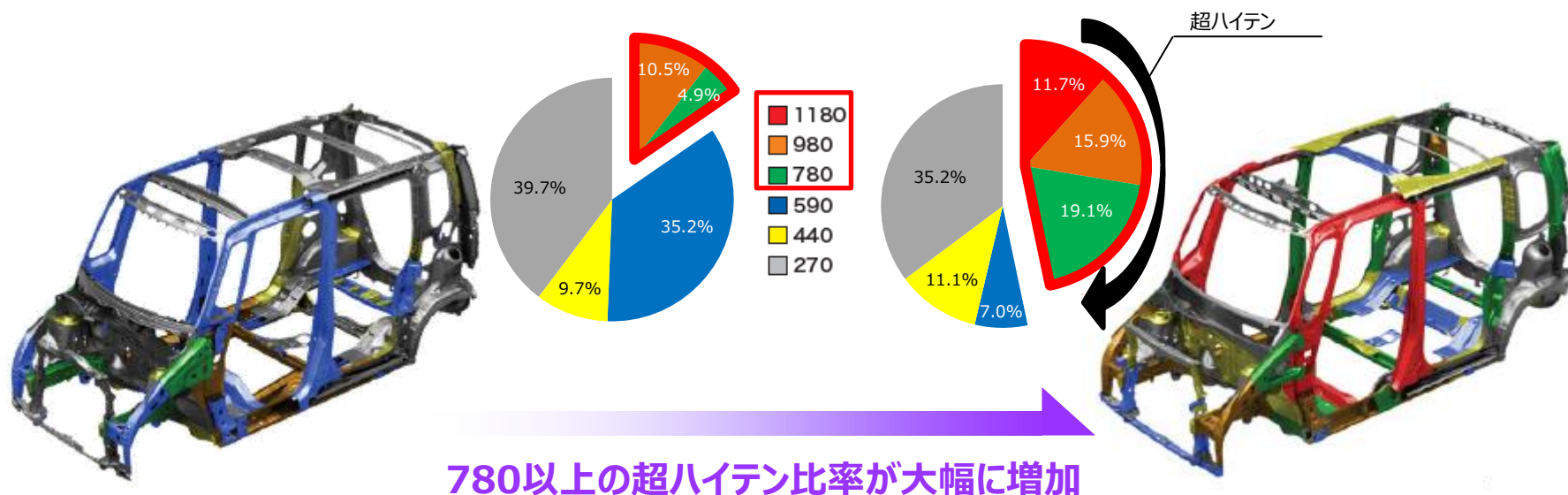
2006年の「世界初」1350MPaバンパービーム商品化以降、
13年にわたる開発/試験の積み重ね

【軽自動車における超ハイテン活用】

- 近年**軽自動車**においても「**骨格部品の超ハイテン化**」が進んでいる
- 特に当社が得意とするキャビン周りに**780MPa級以上**の材料を適用する例が増加

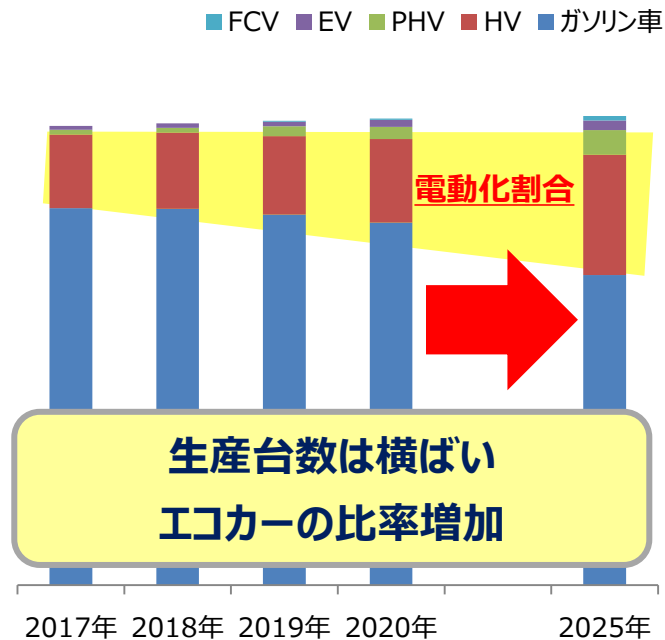
1st N-BOX (2011~)

2nd N-BOX (2017~)



現在業界全体でのホットスタンプ設備の負荷背景やコスト・生産性・環境面等の**冷間成形技術のメリット見直しにより**、大手自動車メーカーでも**ホット→冷間工法への置換**事例が増加。しかしながら、成形の難しさから冷間の超ハイテン加工のプレイヤーは少なく、当社は長年のノウハウ蓄積と研究開発推進により、トップランナーとして一歩先を前進中。

【日本自動車業界の動向】



主力であるボディ部品事業を
維持しながら
今後、比率が増加していく
電動化関連部品の受注に注力する

日本における技術の確立

【新素材・新技術へのチャレンジ】

(バッテリーケースのアルミ化)

当社が積極的に受注している
バッテリーケースにおいて、中国にて
アルミ製バッテリーケースを開発中

(アルミ溶接・加工技術の研究)

鉄よりも軽く、自動車軽量化の
期待を担うアルミにおいて加工
技術の向上を推進中。

中国で電動化部品受注拡大

中国ではハイブリッド用部品・バッテリーケースの納入
スタートに加えてEV部品受注。EVメーカーとの取引も
決まり、業容拡大中

アルミ製バッテリーケース



ホンダ VE-1 EV

ハイテン・超ハイテンを極めることに基軸を置きながら、
電動化対応でアルミ加工にも挑戦中

【電動化関係部品の受注実績】

日本

SUBARU
フォレスター e-BOXER



日産
ノート e-POWER

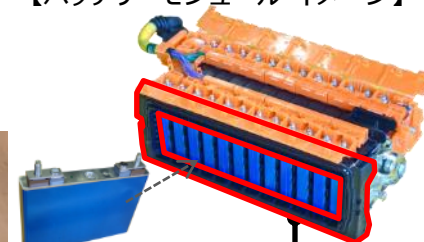


日産
セレナ e-POWER



2020年
量産化予定

【バッテリーモジュール イメージ】



出展: MarkLines

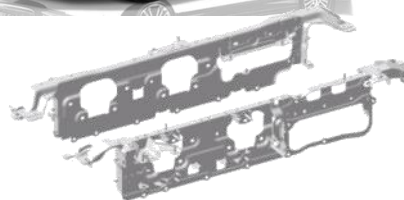
丸順受注部品

中国

ホンダ
CR-V HV



ホンダ
ELYSION HV



ホンダ
VE-1 EV



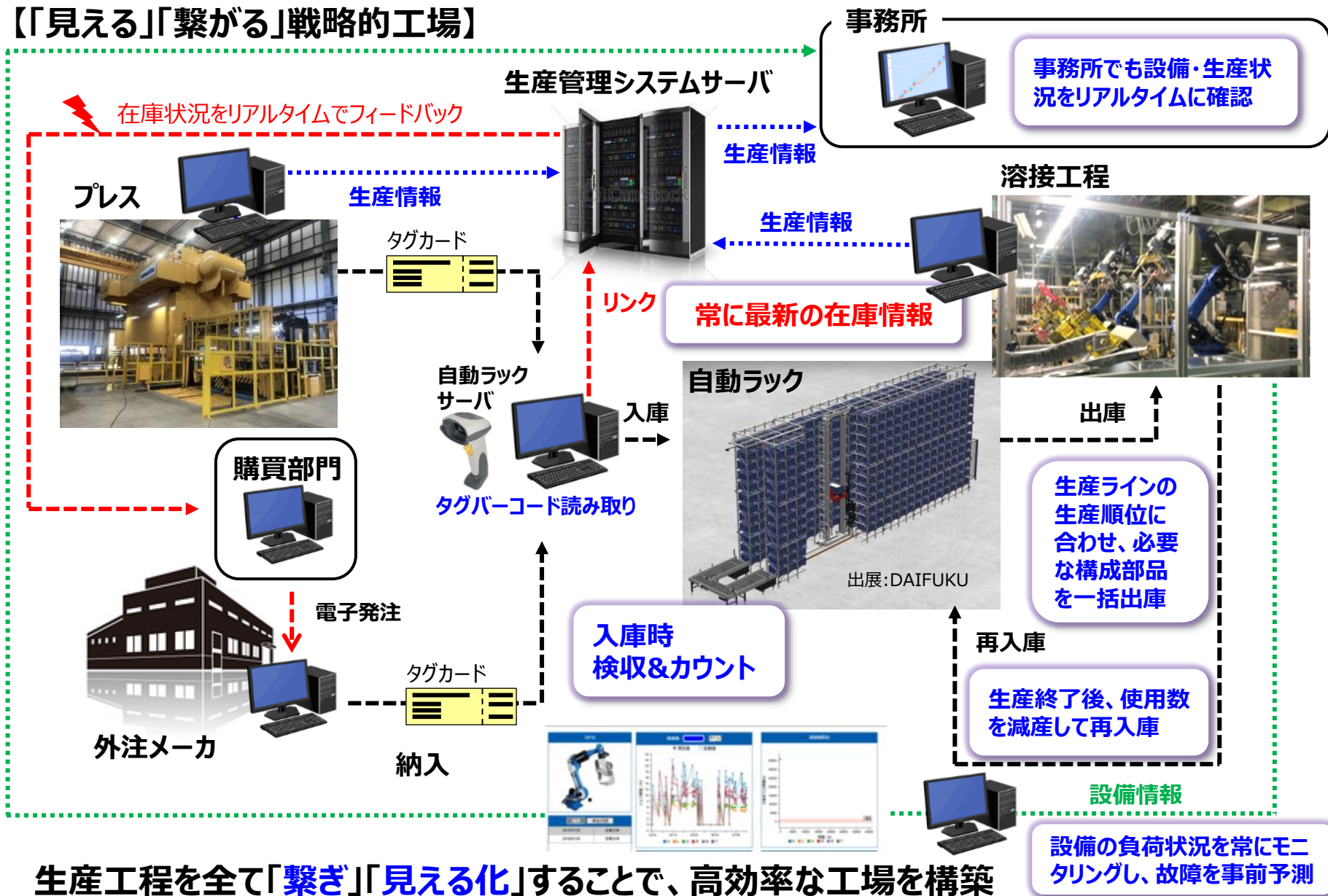
タイ

ホンダ
ACCORD HV



日本・中国・タイの全拠点で電動化関係部品を受注

【「見える」「繋がる」戦略的工場】



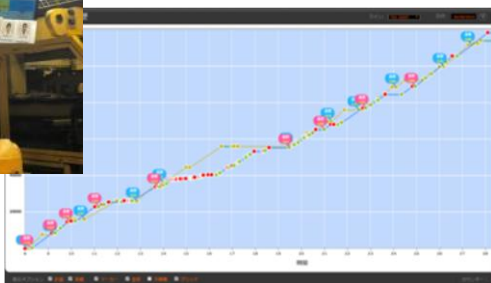
【NEW 3000t トランスファプレス 導入】



- IoTの活用による、生産実績見える化



現場作業者にやさしく

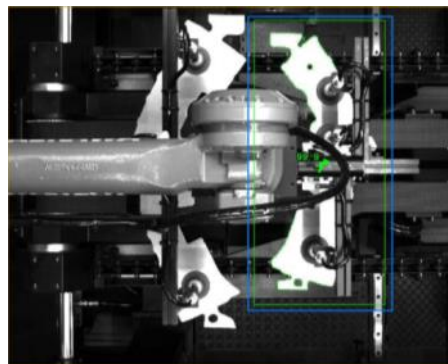


どこからでも生産状況確認

【世界初】材料投入にロボットを採用



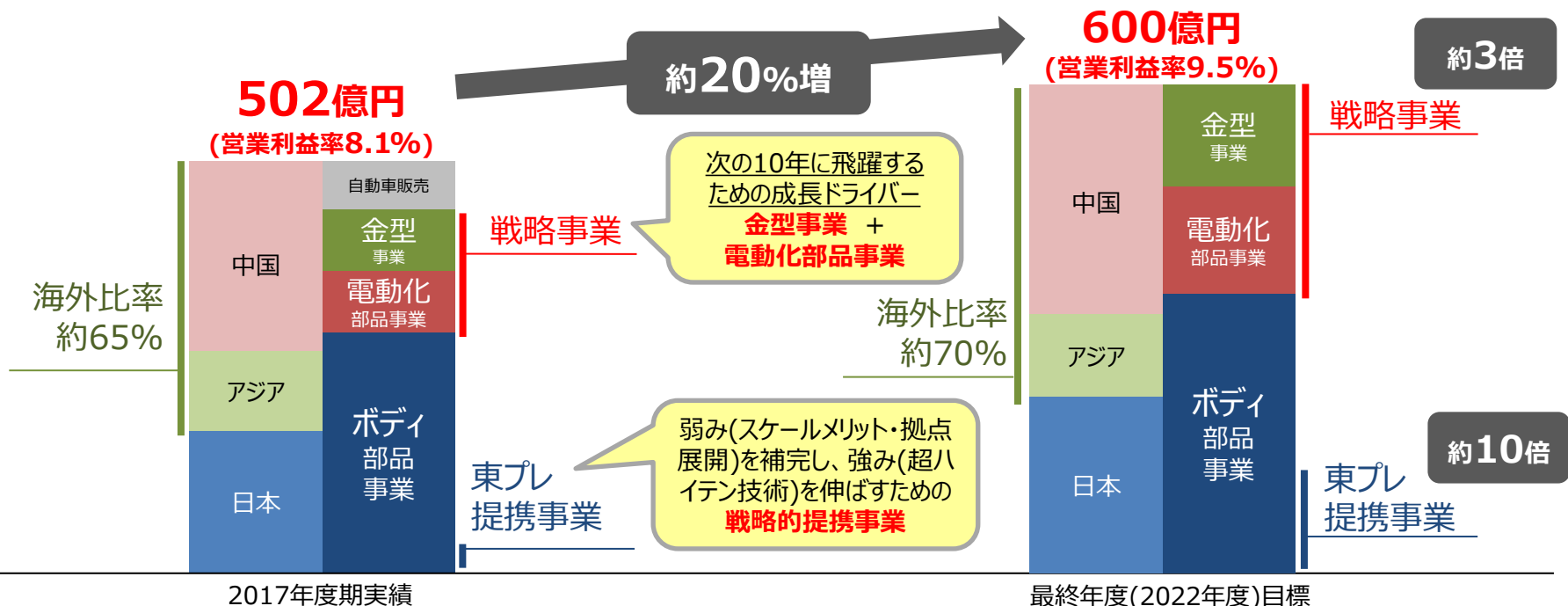
- 圧倒的なスペース効率と汎用性
- アルミ等非鉄金属対応
- 画像処理技術の活用による材料位置補正
- IoTの活用による予防保全



先進技術を活用した「繋がる」「見える」「止まらない」最先端プレスラインを構築

2018年5月10日 丸順グループ中長期5か年ビジョン・経営計画を発表

※2019年3月期(第61期)～2023年3月期(第65期)



	-基準年度- 2017年度(実績)	-1年目- 2018年度(実績)
売上高	502億円	501億円
(内)東プレ提携事業売上高	10億円	25億円
(内)戦略事業売上高	50億円	71億円
営業利益率	8.1%	8.7%
自己資本比率	13.4%	20%

	-最終年度- 2022年度(目標)	-最終年度vs基準年度- 2017年度(対比)
売上高	600億円	約20%増
(内)東プレ提携事業売上高	100億円	10倍
(内)戦略事業売上高	150億円	3倍
営業利益率	9.5%	1.4point増
自己資本比率	40%	約3倍

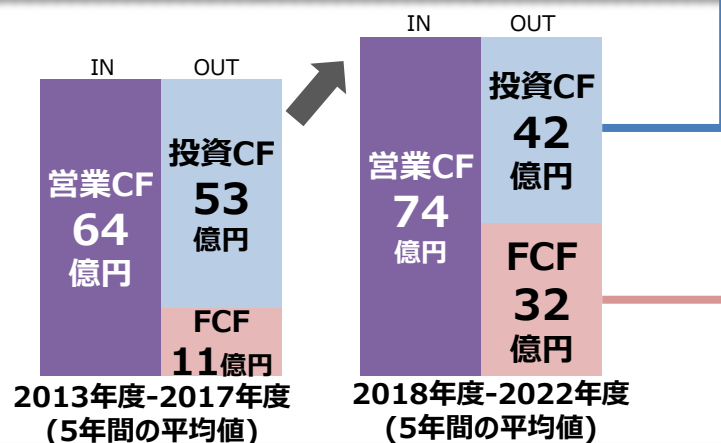
【キャッシュバランスと投資計画】

■ 5年間の設備投資 210億円

- 専用投資 90億円(量産用新機種金型等)
- 汎用投資 120億円

<主な汎用投資>

- ・大型トランスファープレス機(日本) ・スマート倉庫(中国)
- ・金型生産設備(日本・タイ・中国)
- ・次世代溶接ライン(日本・タイ・中国)



■ 5年間のFCF 160億円

- 有利子負債圧縮→5年間で100億円超圧縮 ★
- M&A等の原資
- 配当
安定配当を基本としながら、目標に対する進捗度と設備投資とのバランスを考慮の上、更なる株主還元を目指す

《有利子負債推移》

(単位：百万円)



中長期5か年計画の目標数値は変更なく推進

1.会社概要

* 会社概要 * 沿革 * 事業概要 * 国内・海外拠点

2.決算概況

* 2018年度連結決算概況 * 2019年度業績予想

3.客先・受注部品状況

* 客先別構成比率・主要顧客 * 拠点別受注車種・新規受注状況

4.中長期的な成長へ向けた取組み

* 東プレ(株)との資本業務提携 * スーパーハイテン技術の競争力強化
* 電動化関係部品の受注拡大 * スマート工場への取組み * 中長期的な数値計画

5.投資家の皆様へ

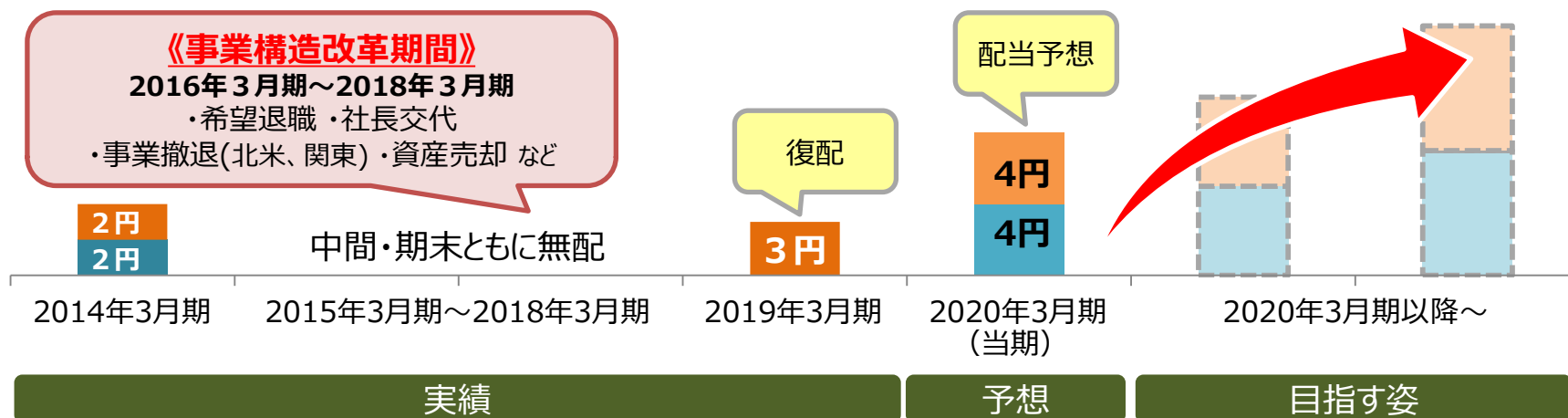
* 配当について

配当の基本方針

当社は、株主の皆様に対する利益還元が経営の重要政策の一つと考えており、配当性向、株主資本配当率、内部留保及び今後の業績動向等を総合的に勘案し、長期的視点に立った安定的・継続的な成果配分を行う

配当の推移

■ 中間 ■ 期末



配当予想

前期（2019年3月期）の配当につきましては、業績、今後の動向及び配当原資となる個別財務諸表の見通し等を勘案し、1株当たり3円の配当とさせていただきました。株主の皆様におかれましては長らく無配となり、大変ご迷惑をおかけいたしました。当期（2020年3月期）の配当予想につきましては、継続性、株主還元向上等の様々な側面から検討し、上記の通りの配当予想といたしましたので御理解賜りますようお願い申し上げます。

ご清聴ありがとうございました



当社ウェブサイトにてIR情報をご提供させていただきます



www.marujun.co.jp

この資料は、株式会社丸順（以下、当社）の現状をご理解いただくことを目的として、当社が作成したものです。当資料に記載の内容は、一般的に認識されている経済・社会等の情勢および当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成したものであり、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更する可能性があります。また、将来に関する記述については、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの内容とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。